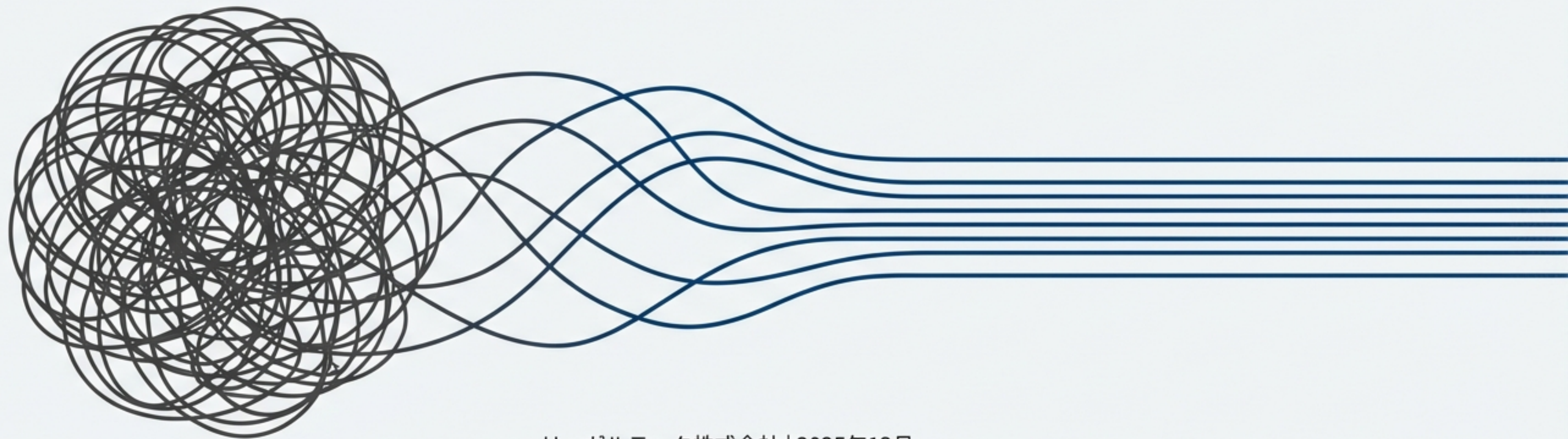


AIエージェントが拓く、特許業務の新時代

Source Han Serif JP | Han Sans JP

「TokkyoAi」徹底調査：国内初・プロセスを可視化する特許AIエージェントシステムの全貌

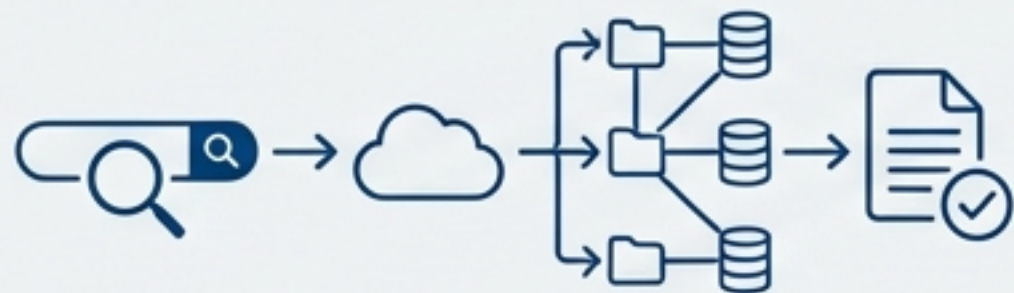


世界的な技術潮流、「自律型AIエージェント」が実用段階へ

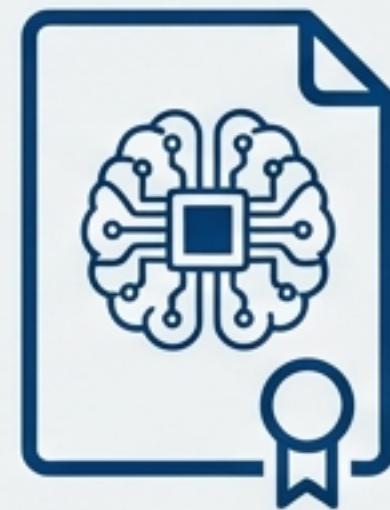
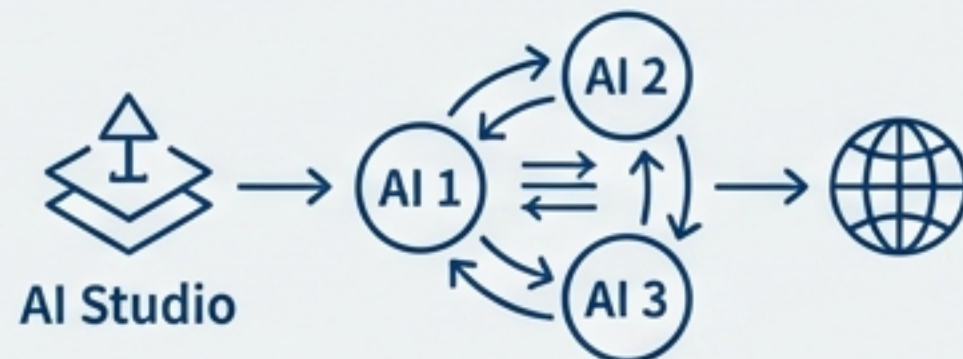
複数のAIが協働し、リサーチや分析を自律的に実行する「Deep Research」は、もはや未来の技術ではない。この潮流が、専門領域である知財の世界にも到来した。



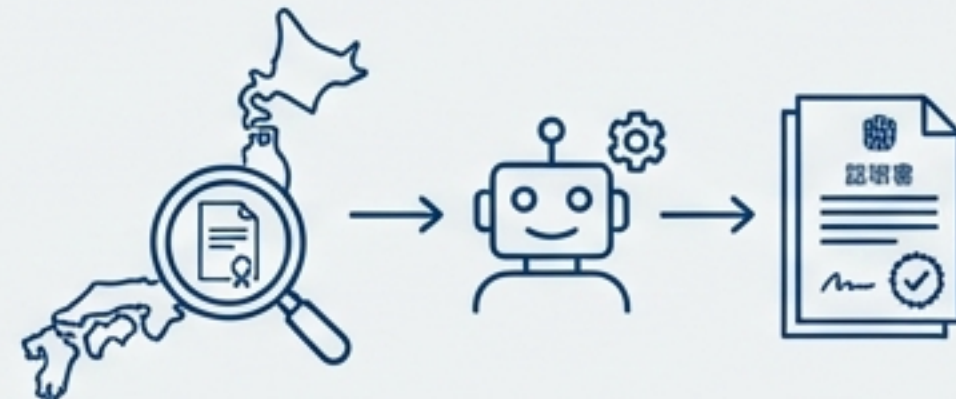
ChatGPT向けに「Deep Research」機能を発表。ネット上の情報収集・分析を自動化する汎用リサーチエージェント。



AI Studioにて「Deep Research Agent」をプレビュー提供。複数AIが協働するエージェント開発がグローバルなトレンドに。



この技術革新を、日本の知財実務に特化して実装したのが「TokkyoAi」である。



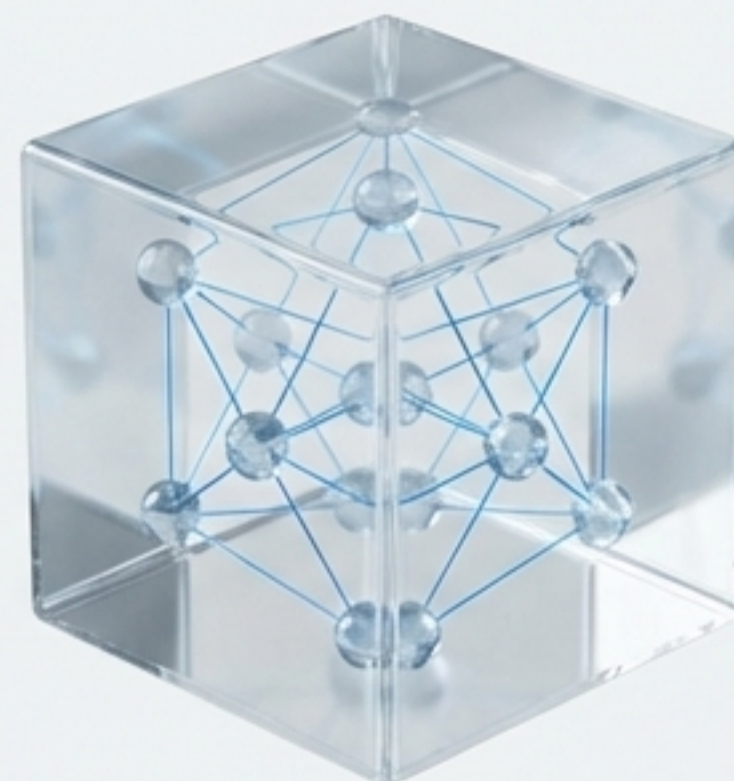
「ブラックボックス」の壁を破る、国内初の特許AIエージェント「TokkyoAi」

従来の特許AIの課題



- 単一AIによるブラックボックス的な回答
- 結論に至る思考プロセスが不明
- 根拠が不明で、人間による再検証が必須
- 特許実務に不可欠な「説明可能性」の欠如

TokkyoAiの革新:「ディープエージェント方式」



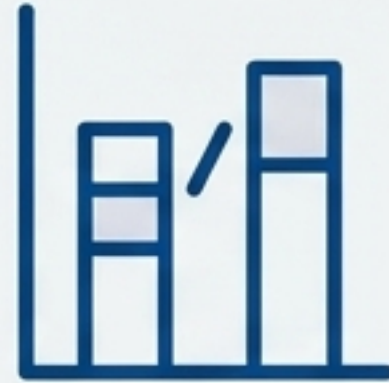
- 複数のAIが役割分担し、自律協調
- AIの思考・調査プロセスを完全に可視化
- 「なぜその結論に至ったか」を根拠と共に提示
- 国内初、AIの全プロセスを見える化した特許エージェント

TokkyoAiは、3つのステップで調査から提案までを自律実行する



Deep Search (検索)

発明メモや課題文をインプットするだけで、AIが文脈を理解し、先行技術文献を網羅的に探索。高度な検索式は不要。



Deep Analysis (分析)

抽出した文献群を構造化し、技術の類似点・相違点を可視化。AIの思考プロセスや根拠もワンクリックで確認可能。



Deep Proposal (提案)

分析結果に基づき、出願方針や差別化ポイントを提案。弁理士が監修可能なレベルの発明提案書ドラフトまで自動生成。

各ステップにおける具体的なアウトプットと提供価値



Deep Search (検索)

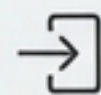
→ 「これと似た技術を探して」といった
自然言語の指示、発明メモ、議事録

⚙️ 意味理解に基づく文脈ベース検索

⇨ 関連特許文献リスト（最短10秒程度
で抽出）



Deep Analysis (分析)



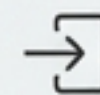
⚙️ 技術構成、作用効果、目的の観点で
内容を構造化

⇨

- 類似点・相違点の比較表
- 「既存技術にあって今回の発明に
ない要素」などを自動で色分け表示
- AIの思考プロセスと根拠（参照特
許）の明示



Deep Proposal (提案)

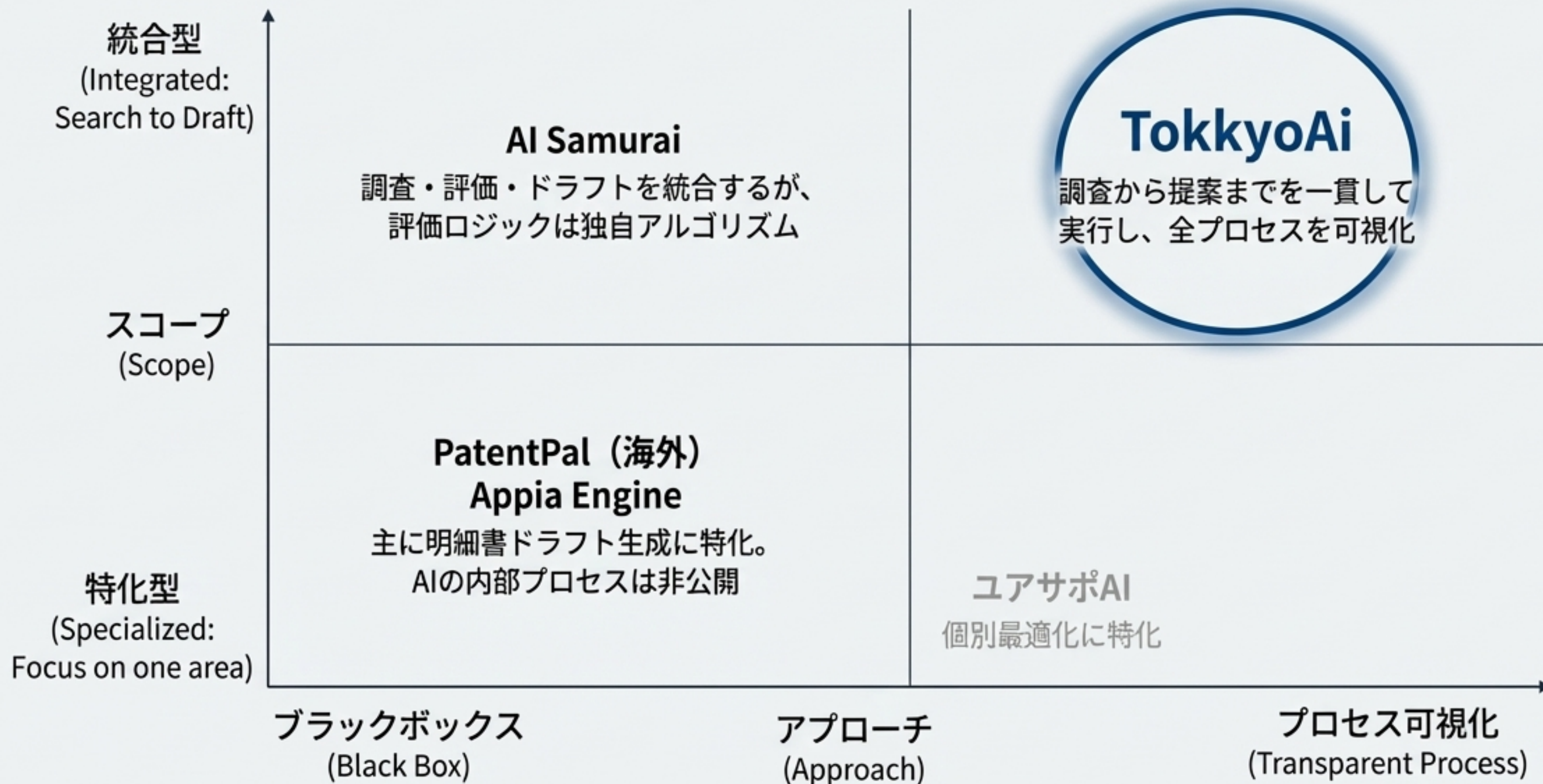


⚙️ 既存機能である特許明細書ドラフト
自動作成機能を統合

⇨

- 出願方針の案
- 差別化すべき技術ポイントの提示
- 特許明細書の体裁に沿った発明提
案書ドラフト

競合環境におけるTokkyoAiの独自のポジショニング



国内主要サービスとの機能・思想の比較

サービス名	主要な特徴	アプローチ	強み・思想
TokkyoAi	自律協調AI群による「ディープリサーチ」。プロセス完全可視化。	統合型エージェント	説明可能性と一貫性。エンドツーエンドの自動化。
AI Samurai	独自の「審査シミュレーション」機能。特許査定可能性をABCDランク評価。	統合型プラットフォーム	評価の定量化。中小・スタートアップ支援に注力。
Appia Engine	実務家のUI/UXに特化。OpenAI活用による「スマートドラフティング」。	ドラフト作成特化	ワークフローへの最適化。弁理士コミュニティとの連携開発。
ユアサポAI	ユーザー専用モデル。「ハイパー・パーソナライゼーション」で文体を模倣。	文書作成特化	既存知見の活用。セキュリティ重視層への配慮（オフライン版）。

【導入事例】 製造業：協働ロボットの安全制御技術開発プロジェクト

TokkyoAi導入が、発明の整理から出願準備までの工数を劇的に削減

課題

- 高度な技術内容（センサー統合ロジック）で発明の要点整理が困難
- 人手による先行技術調査に何日もかかっていた
- 開発者の文章作成負担が大きく、研究開発のコア業務を圧迫

成果

60% 削減



発明提案書ドラフト作成にかかる開発者の文章作成工数

40% 削減



開発されたアルゴリズムによる安全停止頻度。発明自体の価値向上にも貢献。

従来数日かかっていた調査・方針決定が短時間で完了し、社内合意形成も迅速化。

現場の技術者から知財のプロまで、ユーザーの声が価値を証明する

メーカー知財担当者



“「AI導入後はクライアント（社内の発明依頼部門）からの反応が良くなった。調査レポートや提案資料の質が向上した。」

”

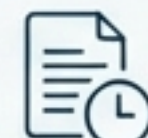
現場の研究開発技術者



“「自分の書いたメモから特許のタネを発見してくれるのがありがたい。専門知識がなくても出願のイメージが掴め自信に繋がる。」

”

特許事務所の弁理士



“「新人弁理士の明細書作成日数が半減し、ベテランのレビュー時間も減った。クライアントへの準備の速さと資料の充実度に驚かれた。」

”

専門家コミュニティが評価する「画期的な可視化」と「協働の重要性」

高い評価と期待



「ブラックボックスだった調査プロセスを見える化した点は画期的。社内説明や経営判断の資料として使いやすい。」

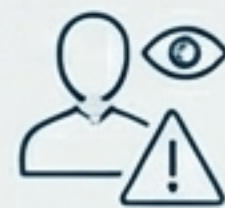
— 特許AIに詳しい弁理士



「特許調査レポートをAIが自動で出す時代が来た。」

— 知財系ブログ

建設的な指摘



「効率化効果は大きいですが、AI任せにしすぎると見落としのリスクがある。最終的に人間のチェックは不可欠。」

— 専門家コミュニティ



AIを上手く使いこなすリテラシーが専門家側にも求められる。人間とAIの最適な協働が肝要。

知財戦略の民主化：中小企業・大学に眠る「発明の種」を掘り起こす

TokkyoAiの「出願の民主化」というコンセプトは、専門家がない組織でも知財活用を可能にする。



中小企業
(SMEs)

これまで数週間要した調査が数時間に短縮。出願件数が増加した事例も。



スタートアップ
(Startups)

開発初期から関連特許を調査し、スピーディな事業の方向修正や差別化戦略の立案を支援。



大学・研究機関
(Universities/Research Institutes)

研究者自身が研究ノートを読み、アイデア段階で特許化の可能性をセルフチェック。

“

「本来埋もれていた発明の種がAIによって拾い上げられ、中小企業や地方発の出願が促進されれば意義深い。」 — 特許庁OB

”

専門家の役割は「作業主体」から「監督・戦略立案主体」へ進化する

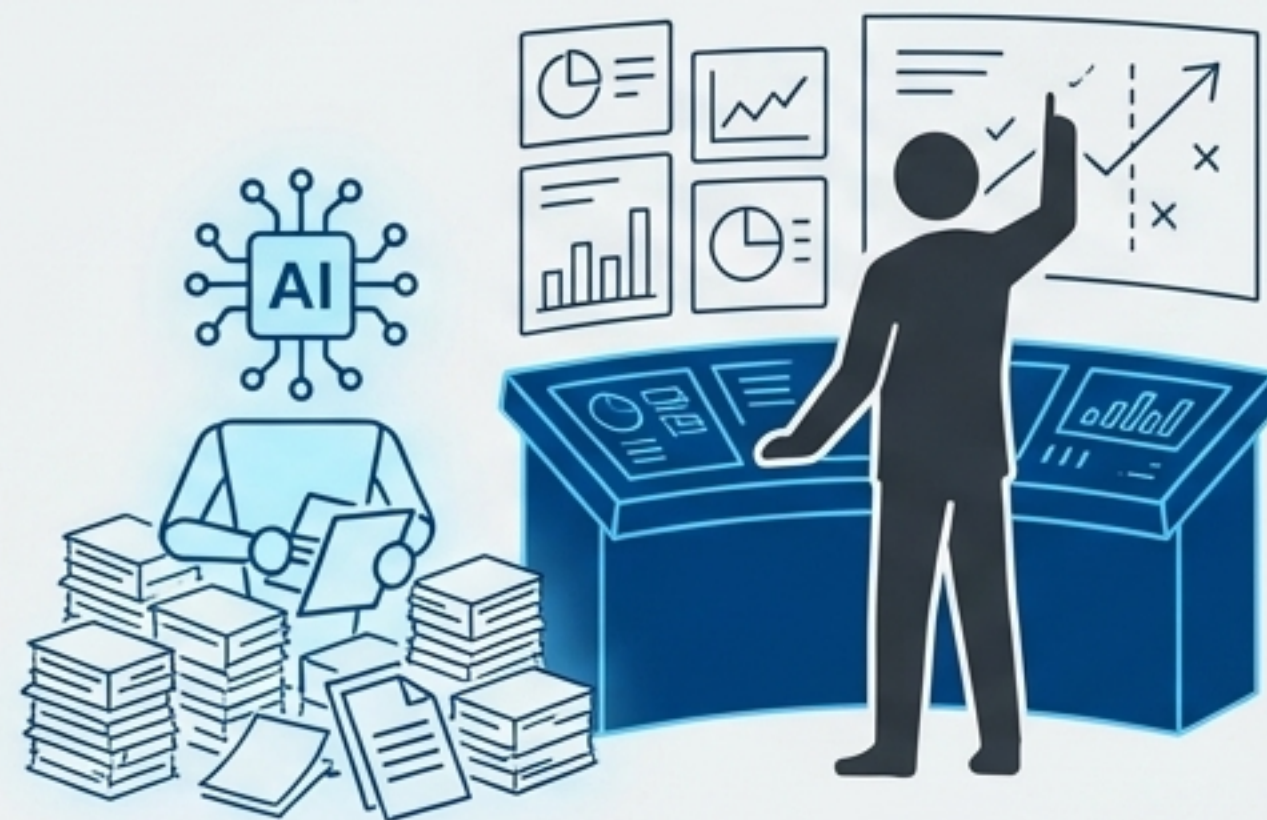
Before: Human Alone



先行技術調査
比較分析
明細書ドラフト作成
社内報告資料作成



After: Human + AI



AIが担う領域
調査、分析、ドラフト
作成の一次工程

人間が注力する領域
クレームの戦略的設定、
権利範囲の最適化、
特許ポートフォリオ構築、
経営判断への貢献

5年以内に特許事務所の仕事は激変する： AIエージェントがもたらす未来

TokkyoAiの進化



「AIを知財の思考パートナーへ進化させる」

- 高性能LLM採用による分析精度の向上
- 多言語対応（海外特許調査・出願）
- 社内技術データとの連携強化
- 意匠・商標分野への横展開

業界へのインパクト



Speed: 「調査に数日→AIなら数分」
「ドラフトに数週間→AIなら即日」の常態化



Strategy: R&Dと知財戦略の完全な同期



Urgency: 「AI後進企業はイノベーションで後れを取る」という危機感が現実のものに



TokkyoAiが象徴する変化： 知財業務の「効率化ツール」から 「戦略共創パートナー」へ

人間の創造性と判断力に、AIの膨大な知識処理能力が組み合わさる。

これにより、これまで不可能だったスピードと精度での知財戦略立案が現実になる。

知財専門家は、この未来に適応し、自らの専門性をさらに高めていくことが求められている。

Appendix: TokkyoAi 主要スペック・提供情報

技術・セキュリティ

- **Architecture**
独自開発AI + 外部LLM（ChatGPT-4等）のハイブリッドアプローチ
- **Security**
機密データを扱えるセキュアな「プライベート特許検索」環境を提供
- **Platform**
SaaS型クラウドサービスとして提供

価格・提供形態

- **Initial Cost**
0円
- **Monthly Fee**
2万円（税別）
*2026年4月以降は月額3.5万円へ値上げ予定
- **Target Users**
大企業から中小・スタートアップ、大学研究者まで幅広く設定